

○ 美幌小学校

- ・ 学校評価【児童アンケート】の結果について
- ・ 学校評価【保護者アンケート】の結果について
- ・ 学校評価【児童・保護者・教職員アンケート】の結果より

令和4年度

学校評価結果



美小スポーツデー



学習発表会

美幌町立美幌小学校

目次

- 1 学校評価【児童アンケート】の結果
- 2 学校評価【保護者アンケート】の結果
- 3 学校評価【児童・保護者・教職員アンケート】の結果より

令和4年度学校評価アンケート結果から

数字で見る美小・柏っ子の姿

日常の学習・生活重視、持続可能な学校体制への転換方針に保護者・教職員の約9割が支持
「将来の夢や目標」「家で本を読む」で全国と開き —— 子どもの世界を広げる「環境と習慣」を

さる1月、本校の保護者・教職員・児童を対象に行った今年度の学校評価アンケートの結果がまとまりました。今回のアンケートは、本校児童の姿が浮かび上がり、具体的な変更点に関する保護者・教職員のとらえ方が分かるよう、項目や集計の仕方を全面的に改めました。

児童アンケートについては、全国学力・学習状況調査の児童質問紙における項目に合わせ、学年別により細かく児童の傾向が見えるようにしました。円グラフは学校全体の状況、棒グラフは、低・中・高学年ごとの状況を示しています。学年を追うごとに変化する傾向を示す項目もありますので、ご家庭で保護者の目から見たお子さんの姿と比べ、どのような経験や関わりが必要か、考えるきっかけに活用いただければ幸いです。

なお、保護者の皆様からの有効回答数は134件、世帯別の回答率は50.6%でした。アンケート項目や時期・回数などについては、新年度もより多くの方に回答いただき、行事を含めた指導計画の見直しや指導方法の改善、合理的な学校運営の根拠にできるよう、工夫してまいります。また、記述回答でいただいたご意見は、教職員・学校運営協議会・PTA役員会で共有し、今後の学校運営の在り方を見直す際の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

《グラフ・表の見方》

- ・円グラフ……対象の回答者全体の状況 単位%
- ・表の黄色の塗り潰し部分……本校・全道・全国のそれぞれもっとも高い数値を示す回答
- ・保護者アンケート横棒グラフの黄色の塗り潰し部分……上位2つの数値を示す項目

1. 学校評価【児童アンケート】の結果 ※全国・全道平均の値は令和4年度全国学力・学習状況調査より

Q1. あなたは、学校に行くのは楽しいと思いますか。

《柏っ子の結果》	柏っ子	全道平均	全国平均
わからない	6.3	0	0
楽しくない	4.4	5.8	4.7
どちらかといえば楽しくない	7.1	11.4	9.8
どちらかといえば楽しい	31.7	34.7	33.7
楽しい	50.4	48.0	51.7

《学校大好き 柏っ子》

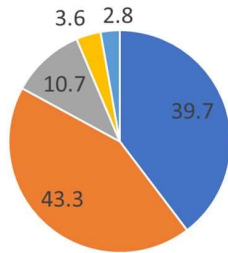
◎「楽しい」は50.4%(全道48.0%:全国51.7%)。⇒全道超え

○「楽しい・どちらかといえば楽しい」の合計は82.1%(全道82.7%:全国85.4%)⇒全道並み

⇒ 学校生活全体の子どもにとっての満足度を測る項目として設定しました。本校では、日常の学級集団づくりをベースに児童の実態に沿った生徒指導を行うとともに、子どもたちの学校生活でもっとも多くの時間を占める授業時間において、「わかる喜び」「できる楽しさ」を味わえる授業づくりを目指してきました。その総合的な結果が、このような数値になって表れていると思われます。今後も「子どもの自立」という大きな目標に沿い、子どもの日常の学習と生活の充実を目指した指導・運営に努めてまいります。

Q2. あなたは、将来の夢や目標を持っていますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
考えたことがない・わからない	2.8	0	0
もっていない	3.6	10.7	9.9
あまりもっていない	10.7	10.8	10.3
はっきりとはしないがもっている	43.3	19.3	19.4
はっきりともっている	39.7	59.2	60.4

《「将来の夢や目標」 はっきりとは持てず》

◎「はっきりともっている・はっきりとはしないがもっている」の合計は 83.0% (全道 78.5%・全国 79.8%) ⇒ **全国超え**

●「はっきりともっている」は 39.7% (全道 59.2%・全国 60.4%) ⇒ **全道・全国よりかなり低い**

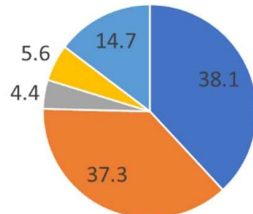
⇒ 本校は、全道・全国に比べ、将来の夢や目標がぼんやりしている児童が多いことが明らかになりました。背景として、日常の生活圏が狭く、公共交通機関の利用体験等、社会の仕組みを知り、そこに従事する人に出会ったり憧れをもったりする機会が少ないことや、遊びの質・生活体験など子どものライフスタイルが、自然や社会への興味関心を抱きづらいものになっていることなどが考えられます。学校では「仕事調べ」などの学習も取り入れています。自然や社会への窓口となる学校図書館の整備が不十分で、子どもの知的好奇心を喚起したり、自分の興味関心に従って問題解決したりするといった役割が果たせていないことも、環境要因として考えられます。

子ども自身が将来を見通し、夢や目標を持てるようになることは、子どもが自立に向かう上で重要な要素の1つです。また、学習の動機付けとしての意味も大きいといえます。子どもの将来の夢や目標がはっきりすることに影響を与えるものとしては、「疑問に思ったことを自分で深く調べる経験」や「日常的な子ども自身の行動力」、「自己肯定感」や「保護者の肯定的な関わり」、「家族や他者との会話量」などがあると言われます。

学校の授業においては、疑問に思ったことを自分で調べることができるように学校図書館の整備を進めたり、言語能力をしっかり身につけさせて表現力を高めたりすることが、今後は一層必要になると考えています。一方、家庭においては、子どもの声に耳を傾けて会話量を増やしたり、がんばる子どもの背中を押して応援したりするなど、肯定的な関わり方が大切になります。

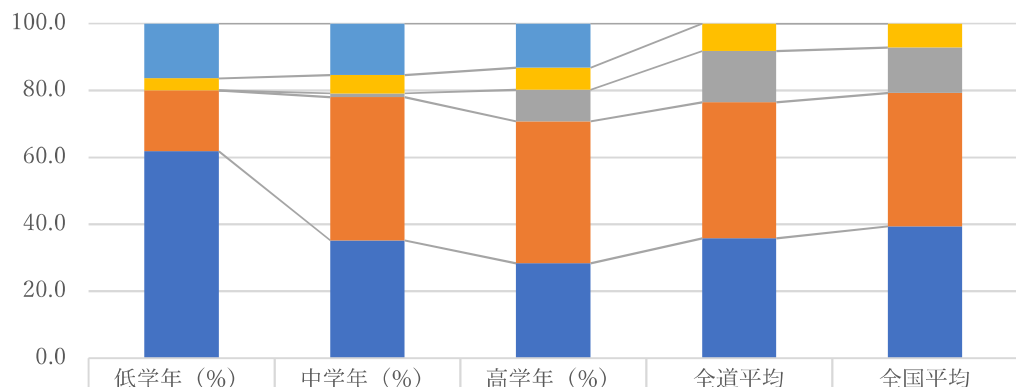
Q3. あなたは、自分によいところがあると思いますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
わからない	14.7	0	0
ないと思う	5.6	8.2	7.2
どちらかといえばないと思う	4.4	15.4	13.5
どちらかといえばあると思う	37.3	40.6	39.9
あると思う	38.1	35.8	39.4

低・中・高学年ブロック別の人数の割合



	低学年 (%)	中学年 (%)	高学年 (%)	全道平均	全国平均
わからない	16.4	15.4	13.2	0.0	0.0
ない	3.6	5.5	6.6	8.2	7.2
どちらかといえばない	0.0	1.1	9.4	15.4	13.5
どちらかといえばある	18.2	42.9	42.5	40.6	39.9
ある	61.8	35.2	28.3	35.8	39.4

《学年が上がるにつれ下降傾向だが…》

◎「ある」は 38.1% (全道 35.8%・全国 39.4%) ⇒ **全道超え**

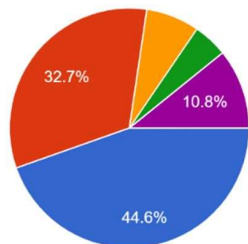
○「ある・どちらかといえばある」の合計は 75.4% (全道 76.4%・全国 79.3%) ⇒ **全道並み**

⇒ 自己肯定感、学力との相関が見られる項目として注目されている指標です。数値からは、日常的に家族や友達、先生方など周囲の人から自分の努力やがんばりを認められている子どもが多い状況にあると考えられます。学年が上がると自己肯定感が下がるのは、小学生段階における一般的な傾向です。柏っ子も、見事にその傾向に当てはまっています。自己肯定感が下がると自分に自信がもてず、様々なことに立ち向かうエネルギーが不足し、物事に挑戦する意欲が湧いてこなくなってしまうため注意が必要です。

自己肯定感とは、仲間と一緒に切磋琢磨したり、その子に合った適度な困難を大人の適度な関わりにより乗り越えたりしたときに育つと言われます。否定的な言動が多く、自己肯定感の低い子どもは、適切な学びの場所が与えられていなかったり、親が先回りして必要以上に困難を取り除いてしまったりしている可能性があります。学校では、教育相談や「ことばの教室」など、その子にあったアプローチを保護者の方と一緒に考えていきます。

Q4. あなたは、読書は好きですか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
どちらともいえない	10.8	0	0
きらい	4.7	10.3	10.0
どちらかといえばきらい	7.2	16.7	16.7
どちらかといえば好き	32.7	30.5	31.2
好き	44.6	42.4	41.9

《読書好きの柏っ子 全国超え》

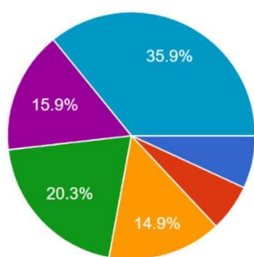
◎「好き」は 44.6% (全道 42.4%・全国 41.9%) **全国超え**

⇒ 本校では、毎日の朝読書や学校図書館ボランティアサークル「がらがらどん」による読み聞かせ、町立図書館の巡回司書によるテーマに沿った本の展示など、読書の楽しみを味わい、読書習慣をつくる取組を進めています。朝読書の時間には、校舎内は静まりかえり、ページをめくる音しかないと言えるような状況です。

読書は、新しい知識を得るだけでなく、様々な表現に触れることで言語能力を高め、思考力や判断力の育成にもつながります。全ての思考は言語で編まれますので、コミュニケーション能力を高め、人と関わり、夢の実現にも近付きます。学校としては、巡回司書・地域団体・教育委員会等と連携し、学校図書館の「読書センター」としての機能を充実させるとともに、学習課題の解決を図る場所として「学習センター」「情報センター」としての機能が果たせるよう、計画的に整備を行っていきます。

Q5. あなたは、学校の授業がある日に、1日に何分ぐらい、家で本を読みますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
2時間以上	6.9	7.2	7.2
1～2時間未満	6.2	9.9	10.1
30分～1時間未満	14.9	17.7	19.1
10～30分未満	20.3	22.3	23.2
10分未満	15.9	14.2	14.1
まったく読まない	35.9	28.6	26.3

《好きだけど家では……読まない？ 読めない？》

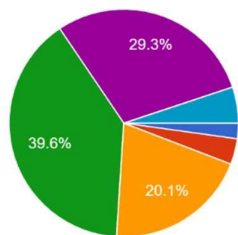
●「まったく読まない」は 35.9% (全道 28.6%・全国 26.3%)。 **全道・全国より多い**

⇒ 学校での朝読書は定着している一方で、全道・全国に比べ、非常に低い数値となったのがこの項目です。読書は好きなのに、家ではまったく読まない子どもが多い要因の一つとしては、家に帰ると読書よりもゲームや Youtube 等の動画視聴といった遊びの時間が多くなっていることや、習い事や少年団などで本を読む時間が無くなっていることなどが考えられます。また、家で読める本が少ない(無い)、読んで聞かせてもらう機会が少ない(無い)など、家庭での読書環境も大きく関係します。

子どもの生活リズムを整える上でも、家庭におけるゲームや動画視聴に関するルールについて子どもとしっかり話し合い、明確に決めて守らせることが大切です。また、学校としては、子どもが興味をもち、読みたいと思える本に出会ったり、そういった本を気軽に学校図書館から持って帰ったりすることができる環境を整え、子どもの読書量を増やすための取組を継続していきます。

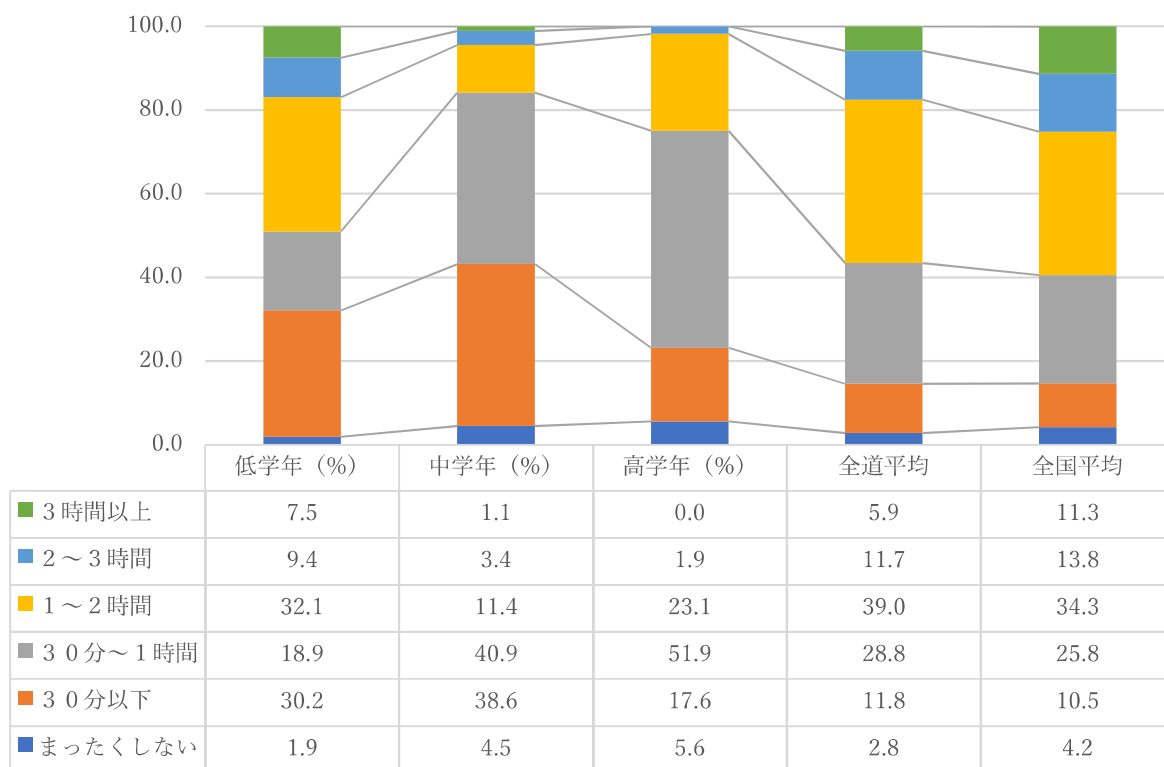
Q6. あなたは家で、一日何分ぐらい家庭学習（宿題＋自学）をしますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
3時間以上	2.2	5.9	11.3
2～3時間未満	3.7	11.7	13.8
1～2時間未満	20.1	39.0	34.3
30分～1時間未満	39.6	28.8	25.8
30分未満	29.3	11.8	10.5
まったくしない	5.1	2.8	4.2

低・中・高学年ブロック別の人数の割合



《取組時間が年々アップ まったくしないも年々アップ》

○30分未満 ……中学年 38.6%⇒高学年 17.6%

○30分～2時間未満……中学年 52.3%⇒高学年 75.0%

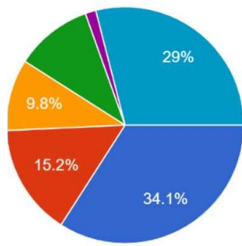
●まったくしない ……低学年 1.9%⇒中学年 4.5%⇒高学年 5.6%

⇒ 学年が上がるにつれて家庭学習の取組時間は長くなってはいるものの、全道や全国に比べると短いというのが、柏っ子の現状です。ただし、学年×10分という家庭学習時間の目安を考えると、決して短すぎるというわけではありません。また、「まったくしない」という子どもの割合も学年が上がるとともに増える傾向が見られます。少年団等の習い事が忙しくなったり、学習内容が徐々に難しくなったりしていくこと、宿題中心から自学中心へ移り変わることや家庭での指導が徐々に少なくなったりすることなどが要因として考えられます。

小学校における家庭学習で目指すところは、中学校に進学したときに、宿題が無くても自分で予習・復習をし、自分の学習を自分で管理できるようにすることです。今後は、今まで以上に家庭学習の取組が学校の授業と連動し、子ども自身が家庭学習に必要感や有用性を感じることができるよう学校として実態把握や対策の検討をしていきます。

Q7. あなたは、家庭学習（宿題＋自学）をいつ始めることが多いですか。

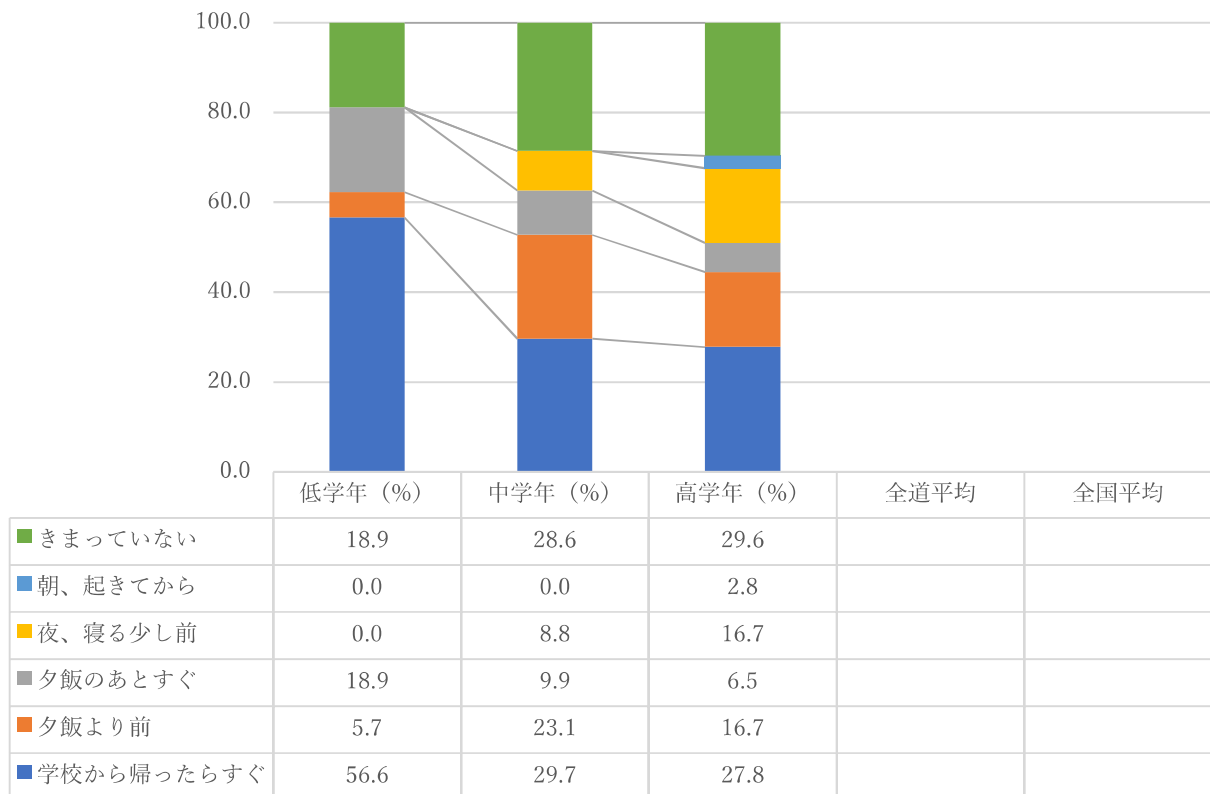
《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
きまっていない	29.0		
朝、起きてから	1.4		
夜、寝る少し前	10.5		
夕飯のあとすぐ	9.8		
夕飯より前	15.2		
学校から帰ったらすぐ	34.1		

この質問は、全国学力・学習状況調査では実施していないため、データなし。

家庭学習の取り組み時間（ブロック別の人数の割合）



《学校から帰ったら まずは家庭学習》

○「取り組み始める時間帯を決めている」児童の合計が約7割

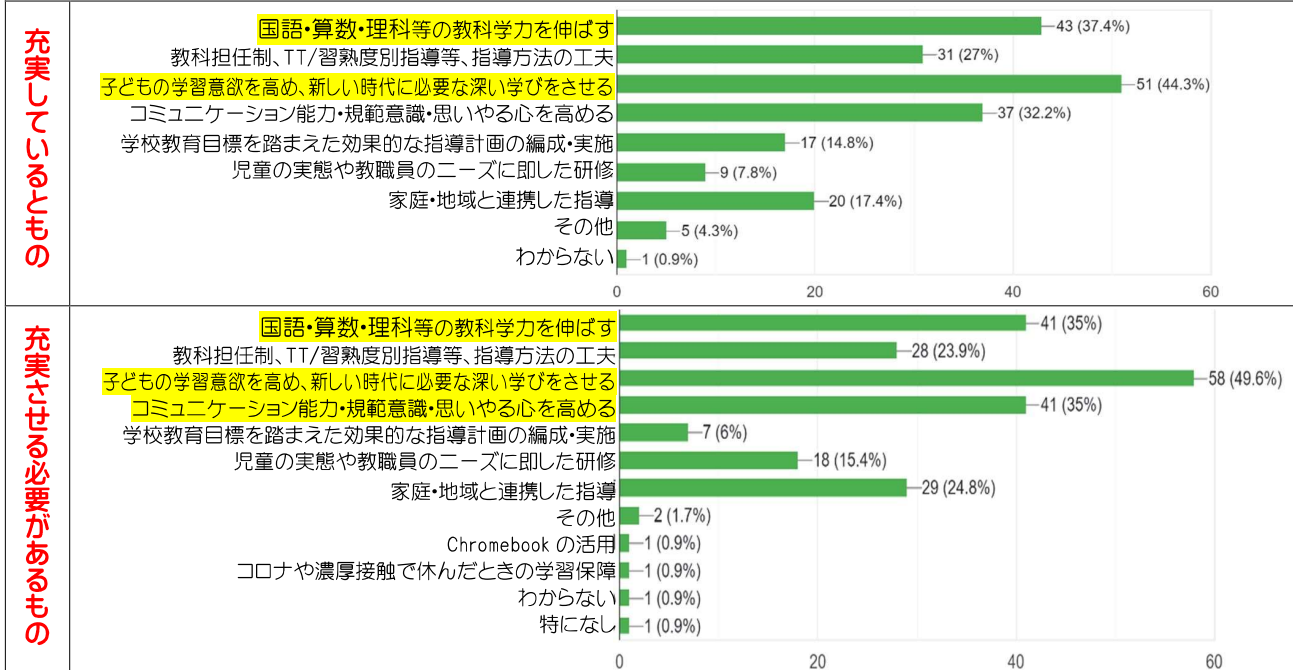
⇒ 低学年は、「学校から帰ったらすぐ」に取り組む子どもが多く、まったくしない子どもも少ない(1.9%)ことから、低学年のうちから家庭学習に取り組むことが習慣化されていると見てとれます。

●「きまっていない」児童が約3割

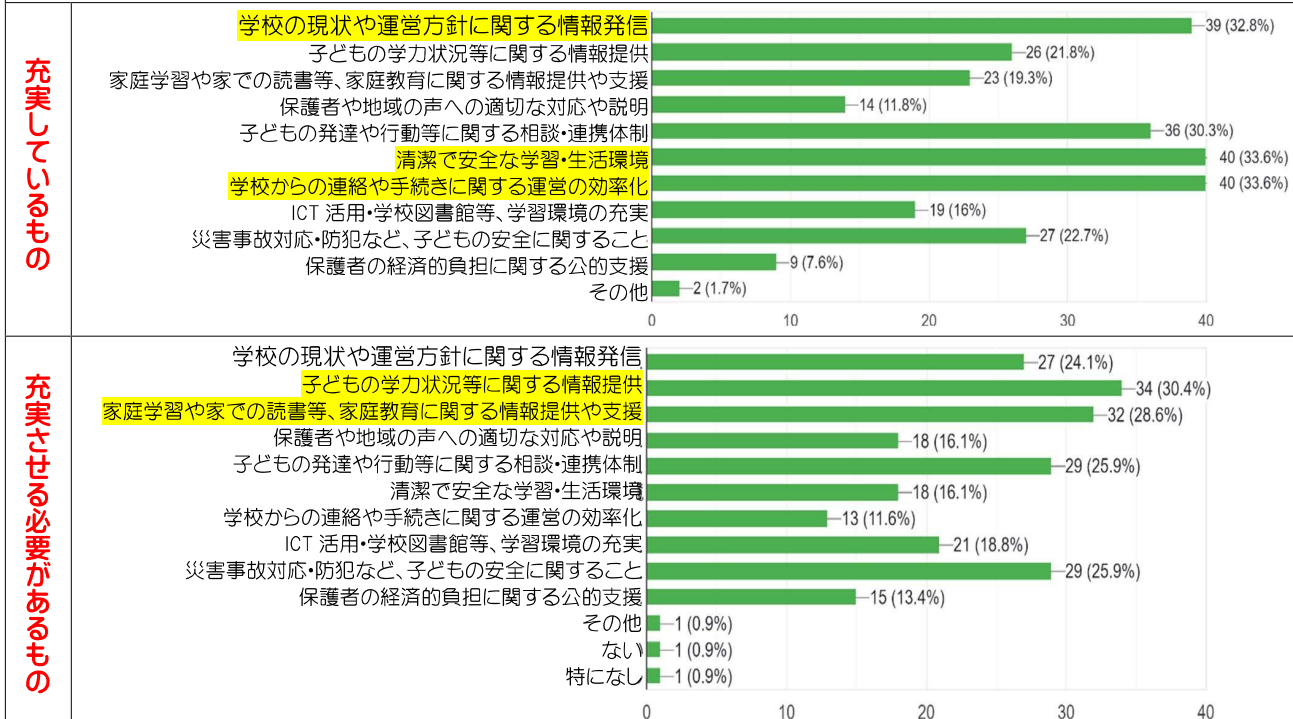
⇒ 家庭学習で大切なのは、習慣化を図り、生活リズムの中に学習や読書を取り込むことです。学年が上がるにつれて「夜、寝る少し前」など、取り組む時間帯が遅くなる子どもが多くなり、「きまっていない」という子どもも増えていきます。放課後の時間が短いことや、習い事などが関係していることが考えられます。今回のアンケートでは明らかになりませんが、「習い事などがあってきまっていない」のか、「ただ単にきまっていない」のかなど、家庭学習が習慣化されない理由があるのならば把握していきたいところです。学校での授業と家庭での自学のリズム感を大切にすることで、学習内容の定着度が違ってきます。同じ時間勉強するなら、身になる努力をさせたいものです。

2. 学校評価【保護者アンケート】の結果（回答数 134 件/P 戸数 249 件）

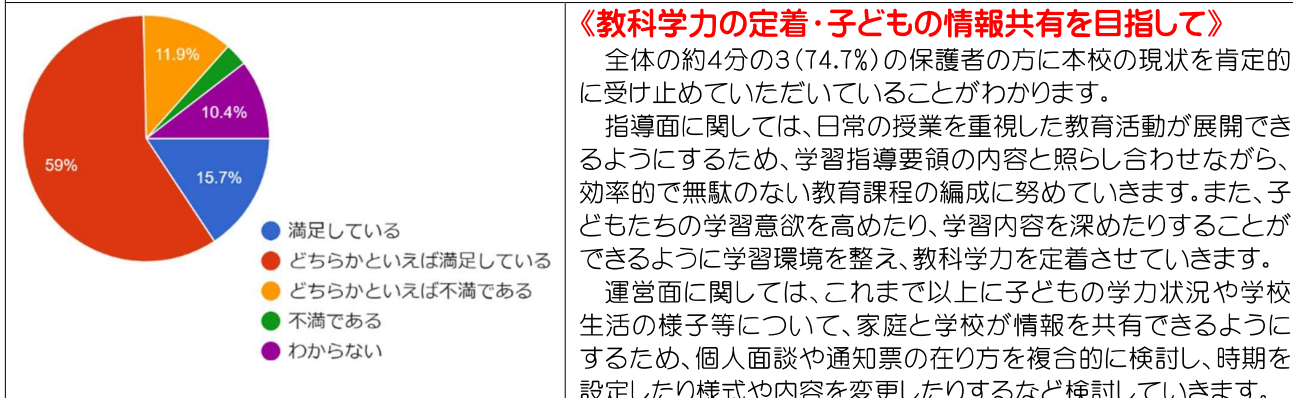
Q1. 本校の指導面に関して



Q2. 本校の運営面に関して



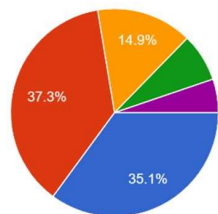
Q3. 本校の現状について、保護者の立場から総合的にどのように感じますか。



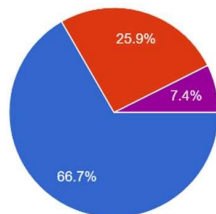
3. 学校評価【児童・保護者・教職員アンケート】の結果より

Q1-①. (保護者・教職員)

今年度、「美小スポーツデー」の時間や内容は、体育の年間指導計画の範囲内で設定し、コロナや悪天候の際、学年ブロック単位で延期可能な計画としました。このことについてどのように思いますか？



《保護者アンケートの結果》

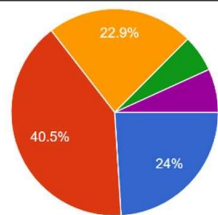


《教職員アンケートの結果》

- よかったと思う
- どちらかといえばよかったと思う
- どちらかといえばよくなかったと思う
- よくなかったと思う
- わからない

Q1-②. (児童)

「美小スポーツデー」の練習や準備をしていたころ、ほかの勉強や学校生活はたいへんでしたか。

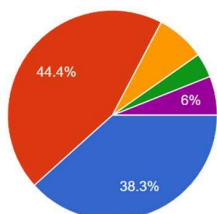


- 大変だった
- 少しは大変だったが、がんばれた
- いつもとあまりかわらなかった
- いつもより楽だった
- わからない

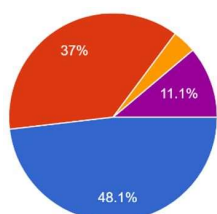
「美小スポーツデー」の取組内容や実施方法については、保護者・教職員の両者から理解を得られたと見て取れます。一方、児童アンケートでは、「大変だった」と答えた児童が24%いました。スポーツデーの実施からアンケートまで間が開いてしまったこともありますので、来年度以降も経年変化を見て、子どもが成長するための適切な負荷をかけられるよう検討します。

Q2-①. (保護者・教職員)

「美小スポーツデー」は、紅白で勝ち負けを競うのではなく、一人一人の子どもが自分の目標に向かって努力したり、友だちと協力したりすることをねらいに実施しました。このことについて、子どもたちの様子を見て、あなたの印象に近いものを1つ選んでください。



《保護者アンケートの結果》

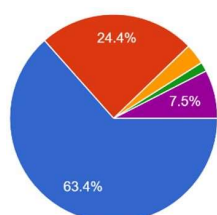


《教職員アンケートの結果》

- 達成されていたと思う
- どちらかといえば達成されていたと思う
- どちらかといえば達成されていなかったと思う
- 達成されていなかったと思う
- わからない

Q2-②. (児童)

「美小スポーツデー」では、自分の目標にむかってがんばったり、友だちと協力したりすることができたと思いますか。

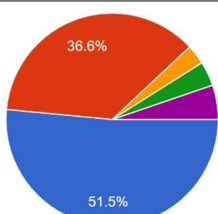


- できたと思う
- どちらかといえばできたと思う
- どちらかといえばできなかったと思う
- できなかったと思う
- わからない

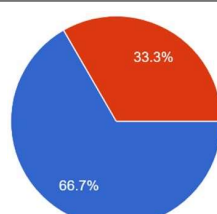
保護者・教職員・児童、3者のすべての数値から、「美小スポーツデー」のねらいは達成されたと見るができます。次年度も、今年度の実施方法を基本として、「自分の目標に向かって努力すること」や「友だちと協力すること」をねらいとして計画を立てていきます。

Q3-①. (保護者・教職員)

「学習発表会」の時間や内容は、年間指導計画から発表用に発展させる教科・単元を選び、他の教科等と関連させ、予め計画された授業時間数の中で練習・準備をするようにしました。このことについてどのように思いますか？



《保護者アンケートの結果》



《教職員アンケートの結果》

- よかったと思う
- どちらかといえばよかったと思う
- どちらかといえばよくなかったと思う
- よくなかったと思う
- わからない

Q3-②. (児童)

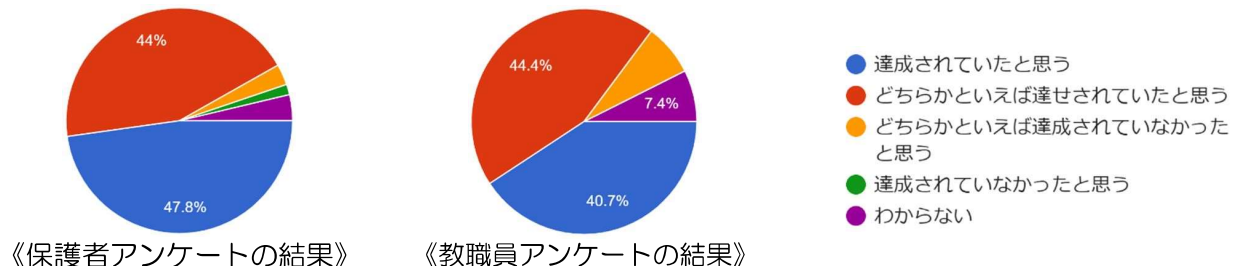
「学習発表会」の練習や準備をしていたころ、ほかの勉強や学校生活はたいへんでしたか。



「学習発表会」の取組内容については、保護者・教職員の両者から理解を得られたと見て取れます。一方、児童アンケートでは、練習や準備の時期にほかの勉強や学校生活が大変だったと感じた児童が24.1%いました。次年度は、年度当初から発表する教科・単元等の見通しをもち、日常の学習や生活に大きな影響がないように留意するとともに、経年変化を見て、実施方法や内容の改善を図ります。

Q4-①. (保護者・教職員)

「学習発表会」は、日頃の学習の成果を発表する場とし、取組の過程で一人一人の子どもが自分の目標に向かって努力したり、友だちと協力したりすることをねらいに実施しました。このことについて、どのように思いますか。



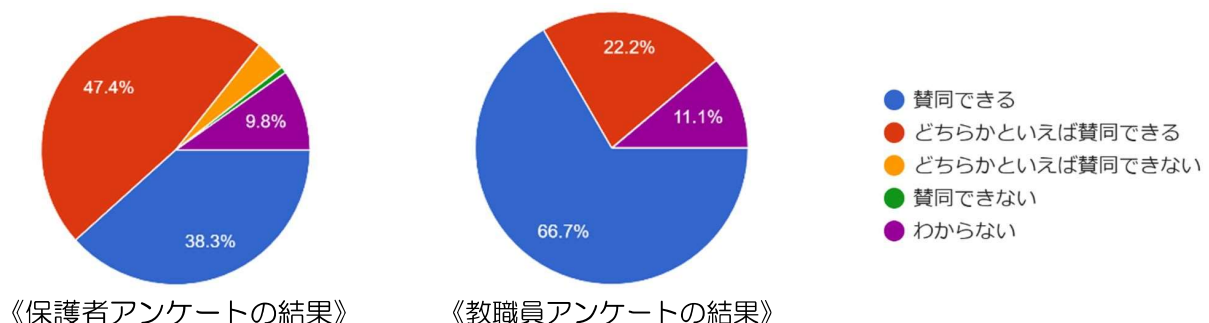
Q4-②. (児童)

「学習発表会」では、学習を深めたり、友だちと協力したりすることができたと思いますか。



保護者・教職員・児童、3者のすべての数値から、「学習発表会」のねらいは達成されたと見るができます。次年度も学習の成果を発表する場とし、「自分の目標に向かって努力すること」や「友だちと協力すること」をねらいとして計画を立てていきます。

Q5. 本校では、新型コロナウイルス感染症による子どもたちの学習や生活への影響を最小限に抑えながら、今後の児童数・職員数の減少を踏まえ、行事のあり方や指導計画・指導体制など、本来の目的に照らし、変化に柔軟に対応できる持続可能な学校への転換を目指しています。このことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。



《美小版 SDGs ～“取り戻す”のではなく“創り出す”～》

85%以上の保護者、89%近い教職員が、持続可能な学校への転換に「賛同できる」「どちらかといえば賛同できる」と答えています。また、「美小スポーツデー」や「学習発表会」の集計結果からも、子どもの日常の学びや生活を重視した、新しい学校の運営方針に、多くの保護者の方のご賛同をいただいているものと考えております。

美幌小学校は、これまでのコロナ対応で得られた経験値を糧に、「取り戻す」のではなく「創り出す」という考え方のもと、そう遠くない未来に訪れる全学年単学級化に対応した学校体制への転換を段階的に進め、子どもたちにより質の高い教育を保障することができる学校運営に努めていきます。